

編集後記

今月の特集は、「アレルギーとつきあう」です。アレルギーをもつ子どもたちと生活を共にする保育者にとっては、アレルギーを「どう治すか」ではなく、「どうつきあったらいいのか」が問題になります。

アレルギーの子をもつお母さんの体験談、そんなお母さんの悩みを受け止めてくださるお医者さん、栄養士さんなどのお話しに耳を傾け、一緒に考えてみたいと思います。

私の娘も、重症ではありませんがアレルギーとつきあってきた一人です。特集の記事を読んでいるといういろいろなことが思い出されました。

まず、滲湿性中耳炎になりまし

た。なんとか「治して」あげたいと隔日に病院に通った時期もありました。「耳にチューブを入れる」ことで普通に生活できると納得するまでに随分時間がかかりました。つぎに、喘息の発作です。何度かの入院の後、発作が出るまでの症状、そのときの薬の飲ませ方など、娘の症状への対処を知ったころ、発作になることがめっきり減っていました。

娘は言いました。「私、もう大丈夫だよ。お母さんが、私の病気のことわかったから」と。それを聞いて、予測のつかない発作への不安が私を動揺させ、そのことのために娘が不安な思いをしていたのだと気づかされました。お母さんにとって「大変だ」ということが、子どもにとって大変なことになってしまうのかもしれない。

(A)

幼児の教育

第九十五巻 第六号

(一九九六年六月号)

定価四五〇円(本体四三七円)

発行 平成八年六月一日

編集兼発行人 田代和美

発行所 日本幼稚園協会

〒112 東京都文京区大塚二―一―一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

印刷所 図書印刷株式会社

〒108 東京都港区三田五―一―二―一

発売所 フレーベル館

〒113 東京都文京区本駒込

六一―四―一九

☎〇三―五三九五―六六一三(営業)

☎〇三―五三九五―六六〇四(編集)

振替 〇〇―一九〇―二一九六四〇

☆ 本誌ご購入のご注文は発売所フレー

ベル館にお願いします。

☆ 万一、乱丁・落丁などがございましたら、おとりかえいたします。